大田観光協会刊

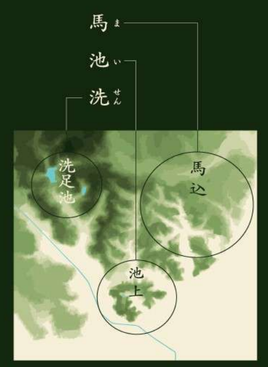
馬池洗

【MA-I-SEN】

まちあるき地図

馬池洗《まいせん》まちあるき地図

まい・せん【馬池洗】（名）古くから景勝の地として人々に親しまれてきた、馬込、池上、洗足池地域。頭文字をとってこのエリアを「馬池洗（まいせん）」と呼ぶ。大田区の中央部を占めるこの地域は、いまでも、緑、水、花、史跡など多くの観光資源に恵まれ、まちあるきに格好の地である。



目線を広げてマップを見れば、大岡「山」、石川「台」、雪「谷」、東急線の駅名にもその地形が表れています。旗の台、長原、洗足池、石川台、雪が谷大塚、御嶽山、久が原、千鳥町、池上、蓮沼、蒲田、台地があり、谷があり、池があり…、清水窪湧水から湧く洗足池の流れも大田区の地形に沿って東京湾に注がれているのが見えてきます。

この辺りの地形は複雑で、多摩川や東京湾に近い海抜数メートル地帯から、標高が四十メートル地帯の上池台までと高低差があり、マップではそれを緑の濃淡で表しています。かつて太田道灌もこの起伏にとんだ地形を利用しない手はないと、九十九谷とよばれるほど入り組んでいる馬込を江戸城築城の候補にあげたといわれるほどです。

池上本門寺などの寺社は台地の端に位置し、考古学発祥の地・大森貝塚も太古の昔は海辺にありました。道は谷や尾根に沿って作られており、坂も多く汐見坂や八景坂など、その名前の由来をたどると歴史、当時の景観が浮かび上がってきます。多くの文士たちもそんな情緒ある場所を好んで馬込一帯に住むようになったのでしょう。

「馬池洗まちあるき地図」はこれまで3つの観光スポットとして親しまれてきた馬込・池上・洗足池を1つのエリアとして、来て・見て・楽しんでもらえればと思い作成しました。池上本門寺参りだけでなく、洗足池あいは馬込文士村まで足を伸ばしてみれば、いろいろな名所、それぞれの歴史に語られる薀蓄（うんちく）を楽しんでもらえることでしょう。この「馬池洗まちあるき地図」を手に、それぞれの「大田の魅力再発見」コースを作ってみてください。

発行：大田観光協会

≪馬 込≫

この辺りは古代、武蔵国の馬の産地だったこと。宇治川の合戦で有名な梶原景季の愛馬・磨墨がこの地で誕生し埋葬されたこと。九十九谷と呼ばれるほど狭い坂道が多かったため、狭い道を越えるという意味の言葉「まごめ」から「馬込」と名づけられたとされる。

関東大震災後、多くの被災者が東京郊外へと移り住むようになり、馬込周辺も人口が増加。震災直前に越してきた尾崎士郎・宇野千代夫妻の誘いもあり、多くの文士達も居を構えるようになり「馬込文士村」が誕生した。

≪池 上≫

地名の由来は、千束（洗足）池が本門寺のふもとまであり周辺の村であったという説と、鎌倉時代の領主・池上宗仲公の姓からつけられたとする説がある。

1282年、日蓮聖人は病気療養のため身延山を下山し常陸の湯に向かったが、途中の武蔵国・池上の池上宗仲公の館で亡くなられた。その後、池上公が法華経の字数（69384）に合わせて約7万坪の寺域を寄進し「池上本門寺」となった。日蓮聖人の弟子たちが建てた支院（現在は本門寺を加えた24ケ寺を朗師講とよぶ）が周辺にある。

≪洗足池≫

洗足池が灌漑に利用されたため1000束分の税が免除され、現住所名の千束となったとされる。それまで千束池と呼ばれていたが、日蓮聖人が病気療養のため常陸の湯に向かう途中に池に立ち寄り足を洗ったことから「洗足池」となった。その際に袈裟をかけたとされる袈裟掛松がある。

清水窪湧水を源流とする池は約4万平方メートルあり、春は桜、夏は深緑、秋は紅葉、冬は渡り鳥の飛来地となる。多くの自然が残る中で、四季折々を楽しめる。

【史 跡】

① 大森貝塚（墟）《C-2》

明治10（1877）年、研究のため来日したアメリカ人動物学者モースが、横浜から汽車で新橋に行く途中、大森駅を過ぎて間もなく左手の崖に白い貝殻の堆積を見つけたことに始まる。貝塚を記念する石碑は大田区（大森貝墟）と品川区（大森貝塚）にあり、大田区側の碑は、佐々木忠次郎博士らによって建てられたものである。

② 文士レリーフ《C-3》

大正末期から昭和初期に馬込から山王の辺りに、尾崎士郎、宇野千代など多くの文士、芸術家が住んだことから「馬込文士村」と呼ばれた。当時の様子が銅版になって、大森駅前の天祖神社脇のスロープに展示されている。

③ 山王会館（馬込文士村資料展示室）《C-3》

馬込文士村ゆかりの文士、芸術家の資料を展示している。
9時～16時30分／年末年始休館／無料

④ 善慶寺《C-3》

延宝年間（1600年代後半）、過酷な年貢の取り立てに耐えかねた新井宿の農民6名が幕府への直訴を計画したが、領主に事前に伝わり全員が捕えられ処刑された。直訴は失敗したが、この事件で年貢が半減された村人は、彼らを「義民六人衆」として崇め墓を建てた。（都指定文化財）

⑤ 山王草堂記念館《C-2》

日本最初の総合雑誌「国民之友」を創刊し、全100巻の「近世日本国民史」を刊行した徳富蘇峰（1863～1957年）の旧居の一部を保存し、蘇峰の蔵書や書簡、愛用の品などを展示。また明治10年代に新島襄がアメリカから種子を持ち帰り、徳富蘇峰の父と蘇峰に贈ったとされるカタルパの花が現在も毎年5月に咲く。
9時～16時30分／年末年始休館／無料

⑥ 赤毛のアン記念館・村岡花子文庫《C-4》

日本に初めて「赤毛のアン」を翻訳して紹介した村岡花子のかつての書斎や愛用品、蔵書が展示されている。
http://club.pep.ne.jp/~r.miki/index_j.htm

⑦ 龍子（りゅうし）記念館《B-3》

日本画の巨匠として知られる川端龍子（1885～1966年）の作品を常時、展示している。記念館は昭和37（1962）年に龍子自身が設計したもので、タツノオトシゴの形をしている。また向かいの龍子の居宅跡地（画伯自ら設計し亡くなる昭和41年まで住む）を区立公園とし、旧居、画室（アトリエ）、庭園を公開している。
9時～16時30分／月曜・年末年始休館／大人200円・小中生100円

⑧ 磨墨（するすみ）塚《B-3》

「源平盛衰記」で名高い宇治川の合戦で活躍した名馬「磨墨」を記念して、明治33（1900）年に建てられた碑。「磨墨」は馬込村で生まれ、合戦後も戻って余生を過ごしたと伝承されている。

⑨ 富士講燈籠《B-3》

文政7（1824）年に馬込村の富士講の人々が中心となり、道しるべと常夜燈を兼ねて建てた燈籠。

⑩ 品鶴（ひんかく）線《B-2》

現在の横須賀線、その上を東海道新幹線が走る鉄路はかつて「品鶴線」と呼ばれ、品川－鶴見間の貨物線であった。昭和2（1927）年から1年間馬込に住んでいた北原白秋は、随筆の中にこの鉄道建設の様子を“まるで油絵風である”と書いている。

⑪ 松原橋《B-2》

昭和15（1940）年、日本で初めて完成した幹線道路（環状七号線と第二京浜国道）の立体交差に架けられた石橋。

⑫ 馬込図書館（馬込文士村資料室）《B-2》

馬込に住んだ作家、文化人の資料を収集した「馬込文士村資料室」がある。

⑬ 旧馬込小学校の時計台《B-2》

大正14（1925）年から昭和37年ごろまで、馬込小学校のシンボルとして親しまれてきたが、小学校改築により現在地に移設された。

⑭ 大田区立郷土博物館《B-3》

大森貝塚をはじめとする考古資料、海苔養殖関係資料、馬込文士村に関係する文士の作品や自筆原稿などが展示されており、毎年春と秋に2回の特別展と1回の企画展を開催している。9時～17時／月曜・年末年始休館／無料

⑮ 熊谷恒子記念館《B-3》

美智子皇后陛下にご進講されたことでも知られる現代女流かな書道家・熊谷恒子（1893～1986年）の旧居を改修し、作品約100点のほか、書道関係の書籍などを展示している。
9時～16時30分／月曜・年末年始休館／大人100円・小中生50円

⑯ 池上本門寺《B-4》

池上本門寺は、日蓮聖人が弘安5（1282）年10月13日辰の刻（午前8時頃）、61歳で入滅（臨終）された霊跡。毎年10月11～13日の3日間にわたって、日蓮聖人の遺徳を偲ぶ「お会式法要」が行われ、殊にお逮夜に当たる12日の夜は、35万人に及ぶ参詣者で賑わう。五重塔は1608年建立の国の重要文化財。

⑰ 松濤園《B-3》

桂離宮で有名な小堀遠州が作庭した約4000坪の庭園。園内には、勝海舟と西郷隆盛の江戸無血開城会見の碑や橋本雅邦先生筆塚などがある。

⑱ 池上梅園《B-3》

日本画家・伊東深水の自宅兼アトリエが大田区に移管され、昭和53（1978）年に池上梅園（白梅150本・紅梅200本）としてオープンした。9時～16時30分／月曜休園（2・3月を除く）／大人100円・小人（6～16歳未満）20円

⑲ 洗足流れ《A-2》

洗足池から流れ出た流水が注ぐ全長1.5キロほどの短流で、呑川につながっている。桜並木の遊歩道として整備されている。

⑳ 洗足池《A-1》

武蔵野台地の湧水をせき止めた池で、昔は灌漑用水としても利用された。現在は約4万平方メートルの広さを持ち、ボートで楽しむことができる。池畔の風景は、江戸時代に初代広重が浮世絵「名所江戸百景」として描いた美しい景観をとどめており、源頼朝の愛馬で宇治川先陣争いで磨墨と競った名馬・池月の像などの史跡もある。

㉑ 勝海舟夫妻の墓《A-1》

勝海舟（1823～1899年）は西郷隆盛との会談の為に池上本門寺に赴く途中、洗足池畔の風景にうたれ、その縁でここに別荘を構え、後に遺言で屋敷裏の台地に葬られたと伝えられる。

㉒ 西郷隆盛慰霊碑《A-1》

明治10（1877）年に戦死した西郷隆盛（1827～1877年）をいたみ、勝海舟が私費で建てた碑。大正2（1913）年に現在地に移設された。

㉓ 清水窪湧水《A-1》

洗足池の4つの主要水源のうち現在も残っているもののひとつ。弁財天を祀り開放している。

㉔ 昭和のくらし博物館《A-4》

戦後の庶民のくらしを語り伝えて生活資料を残すために、昭和26（1951）年に建てられた民家を博物館として1999年2月開館。その後、2002年に国の登録有形文化財に指定された。
10時～17時／月～木、祝日の翌日休館／大人500円・高校生以下300円

【坂案内】

入り組んだ台地の上にある大田区は、馬込から田園調布にかけて坂が多く、各々に当時の景観にちなんだ名称がつけられている。

① 八景坂《C-3》

池上通りの大森駅西口前までの坂。坂の上からは大森の海岸や房総までと眺めがすばらしかったため呼ばれるようになった。

② 闇（くらやみ）坂《C-3》

八景坂下から山王の方に上る坂。坂のそばに八景園と呼ばれる遊園地があり、樹木が生い茂って暗かったため名づけられた。

③ 臼田坂《B-3～C-3》

池上通りから第二京浜に抜ける坂。昔、臼田姓を名乗る人が多く住んでいたことから名づけられた。大正から昭和初期にかけて多くの文士が坂の両脇に住んだ。

④ 鐙（あぶみ）坂《B-3》

南馬込4丁目にあるゆるやかな坂。鎌倉時代の武将・梶原景季の愛馬・磨墨の鐙が落ちたという伝説にちなむ鐙谷の地名から名づけられた。

⑤ おいはぎ坂《B-3》

南馬込4丁目にある急坂。かつて通行人が度々おいはぎの被害にあったことから呼ばれるようになった。

⑥ 汐見坂《B-3》

中央5丁目にある坂。大森の海などが見えたことから呼ばれるようになった。

⑦ 蓬莱（ほうらい）坂《B-3～4》

中央5丁目にある長い坂。3代将軍徳川家光の頃、坂の近くにある稲荷神社で珍しい黒い鶴が捕らえられ、将軍に献上したところ吉兆であると喜ばれた。蓬莱が吉兆を象徴した名であることから付けられたとされる。

⑧ 此経難持（しきょうなんじ）坂《B-4》

池上本門寺の総門から境内への石段。此経難持の偈文96字にちなんで96段あり、信行することの尊さと石段を上ることの苦しさと対比させ、経文を読誦しつつのぼれば自然にのぼれると言い伝えられている。

⑨ 大尽坂《B-3》

仲池上2丁目の急坂。昭和初期に耕地整理によりできた坂道で、大尽（財産のある人）が一帯に住んでいたということで名づけられた。

⑩ 二本木坂《B-2》

新幹線にかかる二本木橋へ通じる坂。この付近が馬込村小字二本木だったことから呼ばれるようになった。

⑪ 馬込坂《B-2》

第二京浜を馬込橋陸橋から西馬込駅方面へくだる坂。坂上と坂下にバス停ができると、自然に呼ばれるようになった。

⑫ 夫婦坂《B-2》

環七と学研通りの交差点。左手に大きめの、右手に小さめの坂があったので、二つの坂をたとえて呼ばれるようになった。

⑬ 雪見坂《A-2》

東雪谷3丁目にある坂。かなりの急勾配で一気に高台になるため富士山の頂の雪がよく見えたことから名づけられた。

馬池洗まちあるき地図

大田観光協会　刊
2008年3月 1刷発行　2015年3月 4刷発行
〒144-0035 大田区南蒲田1-20-20
大田区産業プラザ内
TEL：03-3734-0202　FAX：03-3734-0203
URL：www.o-2.jp　E-MAIL：info@o-2.jp
編集：大田観光協会
地図作成：坂倉杏介・渡辺久美　　割付：南 孝彦
協力：たかだあや（大森まちづくりカフェ）

＊本誌の無断複写（コピー）は、著作権法上の例外を除き、著作権侵害となります。

車内で発売
東急バスで行こう！
東急バス全線1日券
大人 510 円　小児 260 円
◎東急バスの一般路線が一日中乗り降り自由！（一部路線を除く）
◎当日最初の乗車の際、「1日券で!」と乗務員にお声がけください。
◎PASMO・Suica は「1日券」情報を記録し、残額から発売金額を差し引きます。
※購入日のみ有効（前売・払戻はできません）。バス車内のみの発売です。
※ご利用いただけない路線：空港連絡バス、高速乗合バス、通勤高速バス、溝の口駅⇔新横浜駅直行バス、深夜急行バス
（東急トランセ代官山線運バスは4月1日から利用可）
※深夜バスをご利用の際は、別途運賃差額をお支払いください。
※小児用は、小児用 PASMO 小児用 Suica へのみ発売となります。